



資料 1 特別活動で育成すべき資質・能力の視点

人間関係形成 「個と個」が「個と集団」の関わりの中で、互いのよさを生かし、協働して取り組み、よりよい人間関係を築こうとする視点。

社会参画 現在や将来に所属する様々な集団や社会に対して積極的に関わり、よりよいものにしていくとする視点。

自己実現 将来を見通し、今の自分にできることを考え、よさや可能性を生かして実践しながら、よりよい自分づくりを目指す視点。

資料 2 特別活動の学びのプロセス(例)

5年3学期の目標設定 【児童】 もうすぐ最高学年だから、今のうちにはずかしくないようにがんばりたい。 【特別活動】 「6年生から引き継ごう」を機に5年生中心に。

教師との対話 「今のうちに」という言葉に自覚の高まりを感じます。最高学年として当たり前前に行きましょう。

6年1学期の目標設定 周りの人とちゃんと話したり、相手の話を聞いたりする。あいさつをする。

振り返り 人と話すとき、目を見て話すことができた。自分からいろんな人にあいさつができた。

6年2学期の目標設定 最高学年としての言動を意識する。移動のときなど、周りの様子をよく見る。

(東京都世田谷区立尾山台小学校の例)

特別活動の「見方・考え方」について

藤田 特別活動の見方・考え方が「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という3つのキーワードで整理されましたが、この3つの関係性を分かりやすく教えてください。

長田 その3つは、順序をつけられるものではありません。さらにこれらの3つの視点は学習指導要領が目指している資質・能力の3本柱である、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性の全てにあてはまっています。これら視点を大事にして、子どもの資質・能力を育てていこうということなのです。(資料1)

特別活動で、この資質・能力を育てるにもポイントがあります。「知識・技能」に偏ると特活らしくなくなってきます。「思考力・判断力・表現力等」は話し合い活動が馴染みます。さらに、「学びに向かう力・人間性」は、まさに特活の肝なのです。もちろん、後者の2つが大事で、特別活動における「知識・技能」を軽視しているわけではありません。

学習のサイクルやプロセスについて

藤田 今改訂で特活の目標が、(1) (2) (3) にかき分けられました。特活の見方・考え方というのは、そのどれにも当てはまるということなのですね。では、学習のサイクル・プロセスはどのように考えればよいですか。

長田 これまでは、教師個人の経験に左右されたり、45分という学級活動の中に、このプロセスがすべて入っていきなくてはならないといった誤解があったりしました。今回、学習指導要領の解説の中で、45分の中で学びのプロセス全部を織り込む必要はないことを明記しています。事前の指導、本時・実践、振り返りという1つの活動(学び)のまとまりの中で、そういったプロセスを明確にしていこうとなったわけです。小学校の場合はこれまでやってきた45分の中で、意思決定を大事にするのか合意形成を大事にするのかということをも意識して、学びのまとまりの中で、解説に示したようなプロセスをちゃんと踏まえてほしいということなのです。(資料2)

一人一人のキャリア形成と自己実現

藤田 学級活動について伺います。今回新たに(3)が突然入ってきました。この経緯を教えてください。

長田 中高にはこれまでも、「(3) 学業と進路」がありました。進路指導は、そもそも一生続く人間形成のことを指しているのです。それは小学校にないわけではありません。小学校にもキャリアの視点は大事ということで、「一人一人のキャリア形成と自己実現」という表現で内容項目を置き、学びが小学校か



資料 3 教科での“振り返り”をキャリアに!

各教科・領域における活動の中にある、自分の考えを振り返ったり、表現したりする機会を活用する!

【算数の振り返り】

- ・新しく気づいたこと
- ・自分の考えが変わった理由
- ・友達の考えを聞いて思ったこと
- ・学び合いを通して感じたこと
- ・次に学びたいこと

(秋田県大館市立城西小学校の例)

低学年では、上に示した項目で振り返りの手がかりを示しますが、学年が上がるにつれて、子どもたち自身の発想で行うように促します。こうして培った「振り返りの力」を例えば、異学年交流の場面では、上級学年の児童が行う様子を下級学年の児童に見せ、自身の今後を見通す機会としても位置づけるなどしています。

「キャリア・パスポート」について

藤田 学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが大切なのです。学習指導要領では、そのような活動を行う際に「児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と定められています。そして昨年3月末には、この教材の全国的な名称として「キャリア・パスポート」と呼ぶ方針なども示されました。なぜ「キャリア・パスポート」が必要なのですか?

長田 すでに、どの学校においても児童の記録を丁寧に記録・蓄積していただいているはず。いわゆるポートフォリオです。こんな“宝”がどの学校にもあります。しかし、これらの記録は学年や校種を超えず、今だけの“宝”になっています。学びのつながりの実感や学校段階間の接続の重要性が叫ばれる中で、これを人生の“宝”にしてあげられないか、これが「キャリア・パスポート」の趣旨です。

但し、児童の記録を全てを持ち上がることは、物理的にも不可能です。無用の長物にもなりかねません。そこでポイントになるのは、学年末や卒業時における記録の「取捨選択」や「再編集」というひと工夫なのでしょう。どれを持ち上がり、どれを家庭に持ち帰らせるのか、そのような工夫により、学校内外での学びの横をつなぎ、小学校から高校までの学びを縦につなぎ、子どもたちにとっては自己理解、教師にとっては児童理解につながるというものです。(資料4)

資料 4 中学校で“宝”が生きた事例

【自分を知らうカード】 大分県内の全ての小学校6年生が記録し、進学先の中学校に引き継ぐ教材。

オモテウラ

どうして中学校の先生が持っているの? 先生、読んでくれたんだ。

★中学校(中学部)の先生へ
今、学校生活に対して納得すること、わからないことや不安なことを書きましよう。

6年
いろいろな授業を受けることが楽しかったです。
友達関係が不安です。

★これから中学校(中学部)へ入学する皆さんへ
これから中学校(中学部)へ入学する皆さんへ中学校生活を紹介しよう。

中学校は1年生から6年生まで、体育祭、文化祭などいろいろな行事があり、とても楽しいです。勉強は得意な科目はありますが、苦手な科目はあります。毎日とても早起きで、朝早くに学校に行きます。

(大分県の例)